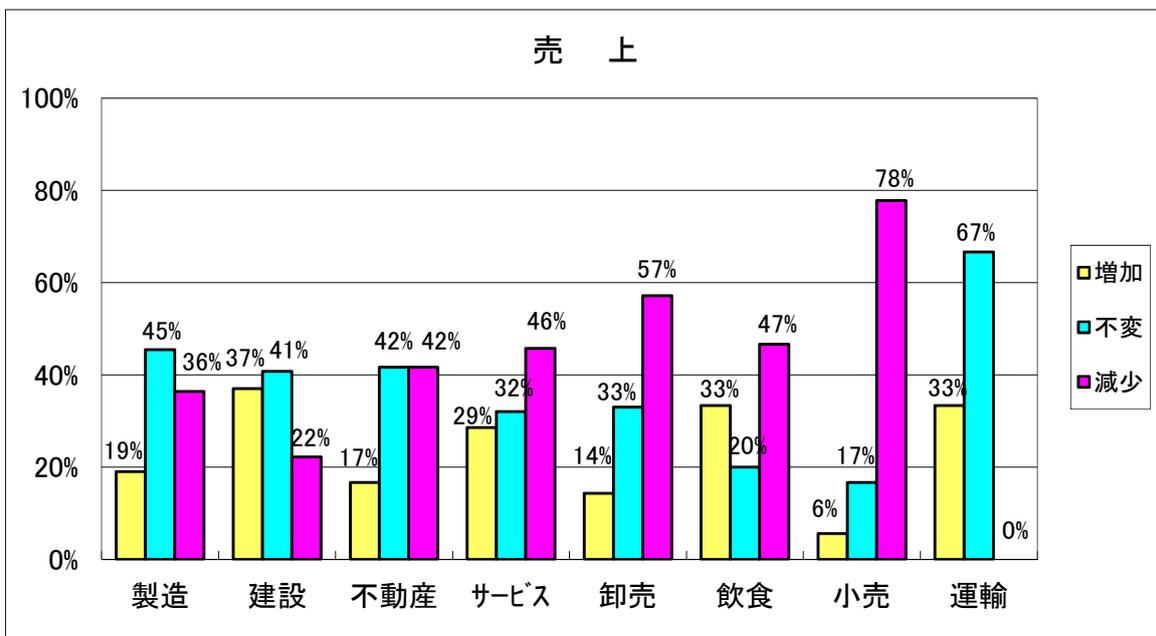


調査1 平成26年7月～12月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と平成27年上期の見通しについて比較表示してある。

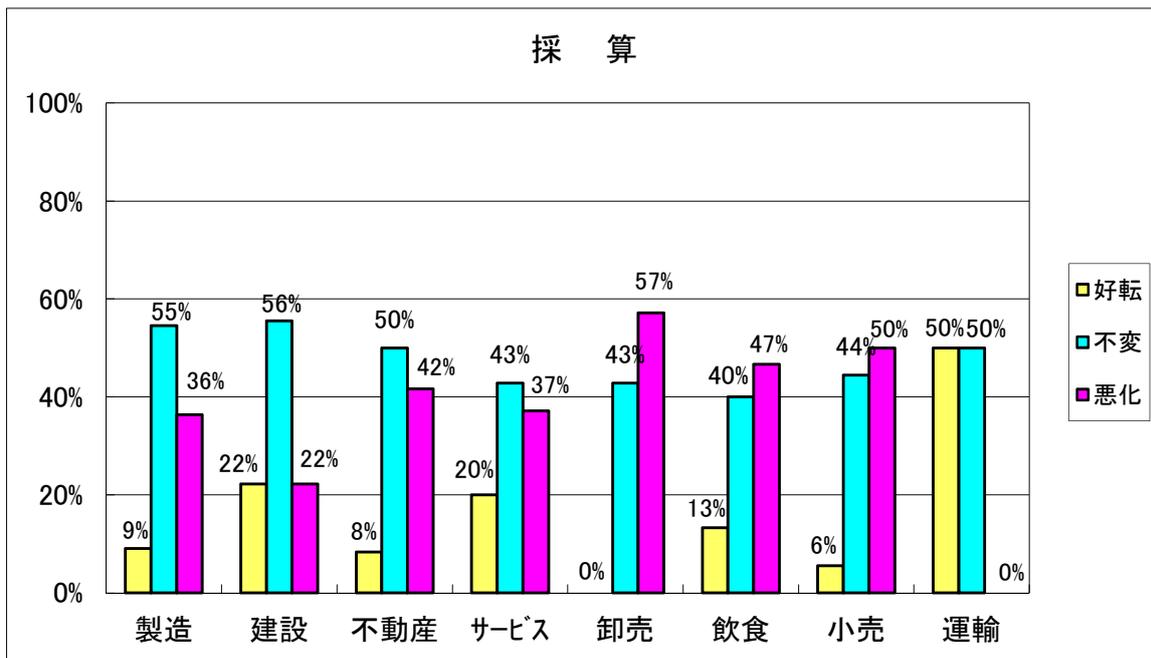
### ①売上について

全体的に売上は低迷している。昨年の上期で売上増加が顕著だった飲食業が前回売上増加が57%から33%へと減少している。売上が悪化しているのは小売業(78%)卸売業(57%)となっている。売上増加がみられるのは、建設業(37%)だけである。



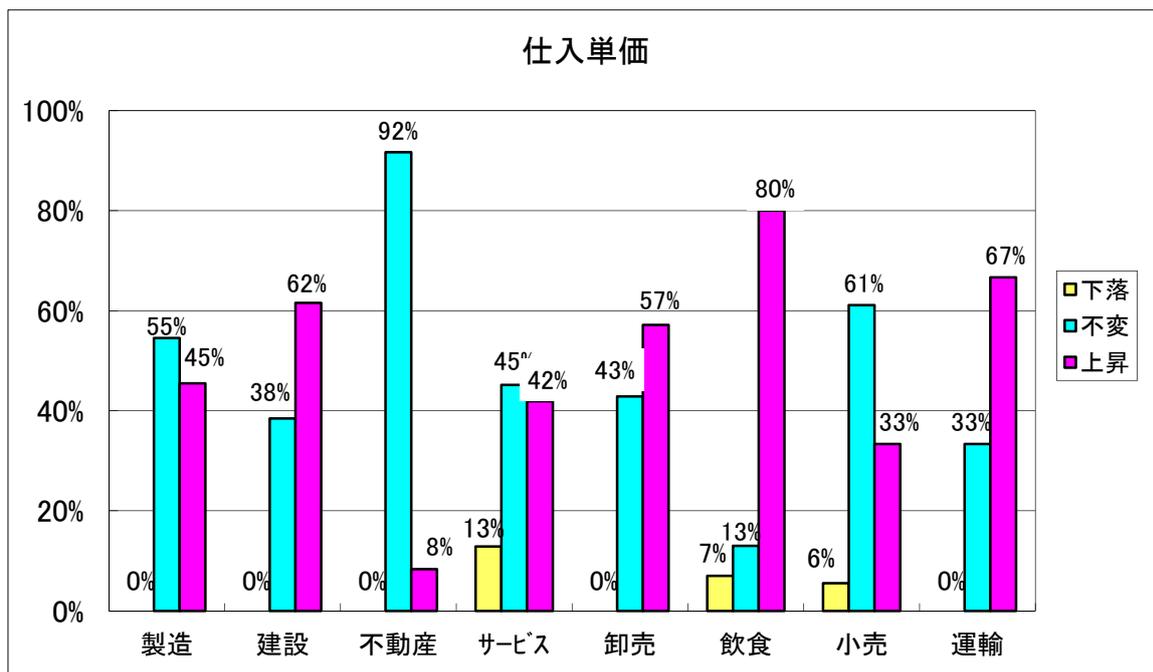
### ②採算について

全体で見ると、「好転」16% (前回22%)、「不変」48% (前回43%)、「悪化」36% (前回35%)であり、前回調査と比べると悪化している。特に「悪化」しているのは卸売業(57%)で厳しい状況である。唯一、運輸業が悪化しておらず好転している。



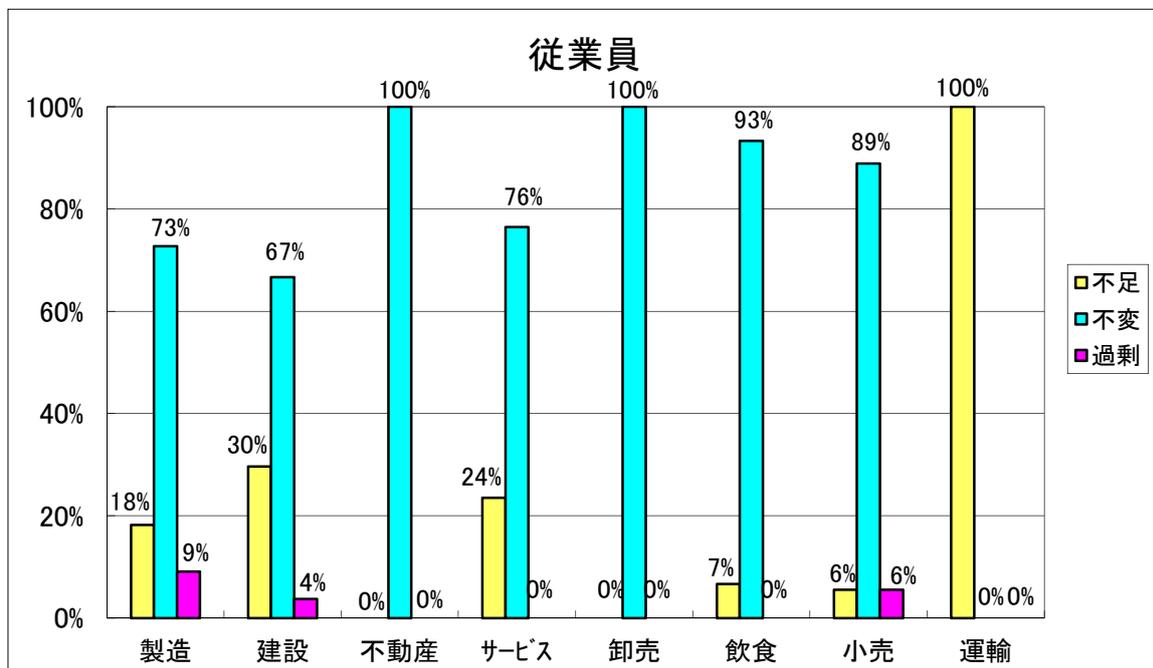
### ③仕入単価について

仕入単価が「上昇」しているのが飲食業(80%)、運輸業(67%)、建設業(62%)、卸売業(57%)と円安による仕入価格の上昇が影響している。

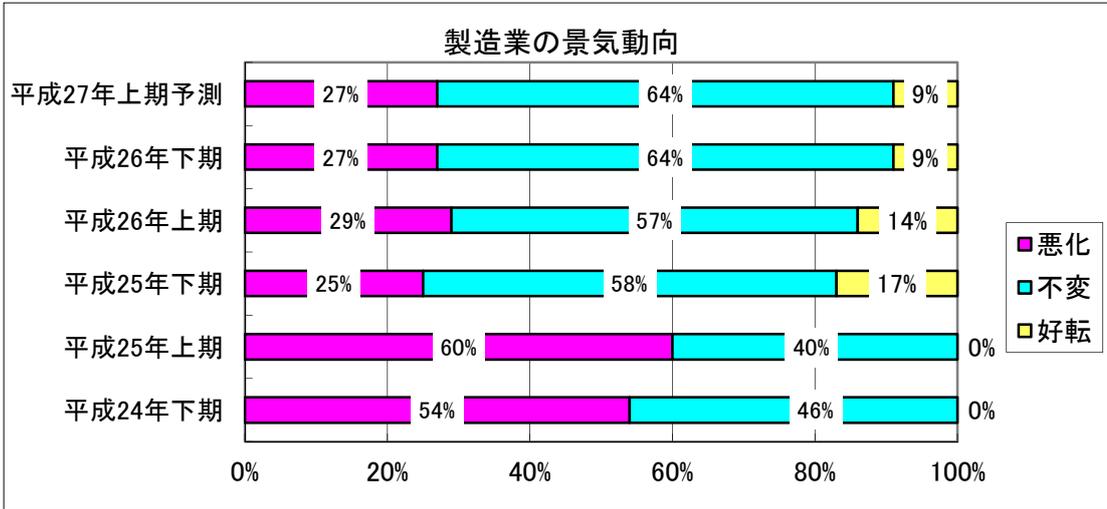


### ④従業員について

全体で見ると「不変」の回答が多いなか、「不足」が顕著なのが運輸業100%(前回66%)で人出不足が深刻な状況である。

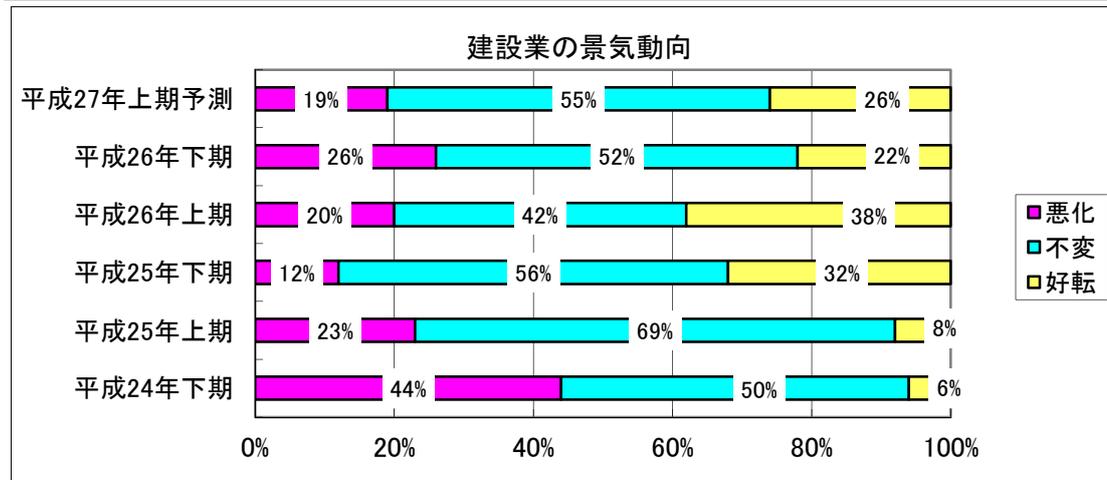


⑤業界の景気動向について



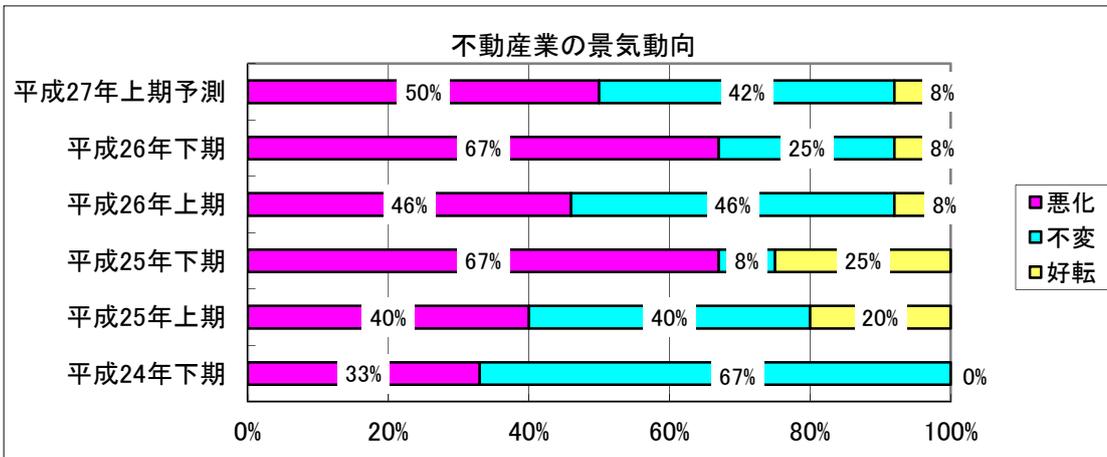
■製造業

平成26年下期では、「好転」が9%と前回より減少し、「悪化」も27%と前回より2%減少した。平成27年上期の見通しは不変が64%ともっとも多かった。



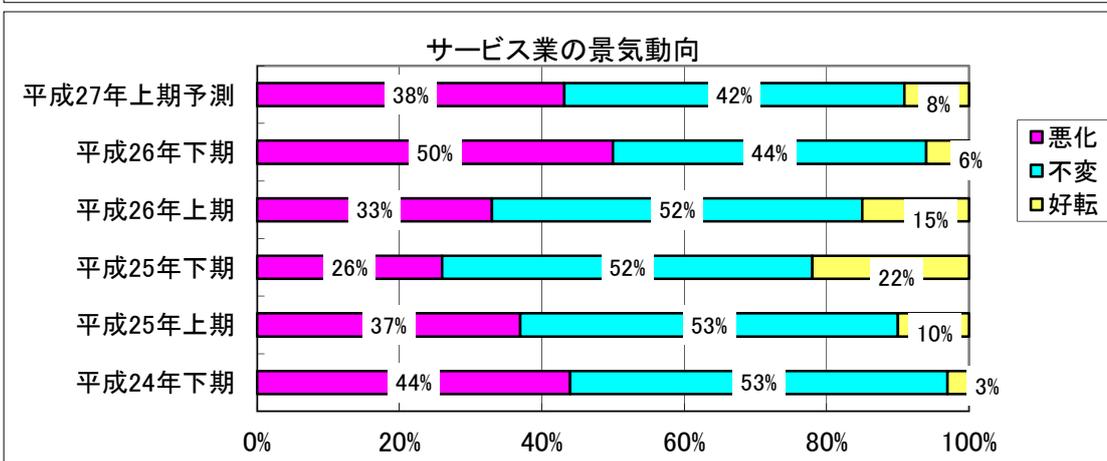
■建設業

平成26年下期では、「好転」が22%と前回より16%ダウンになり、悪化の傾向がみられた。平成27年上期の景気は「好転」が26%と若干アップした。



■不動産業

平成26年下期は、「好転」が8%と前回と変化なかったが、「悪化」が前回よりも21%アップし厳しい状況である。平成27年上期は「悪化」は減少しているものの状況は厳しい。

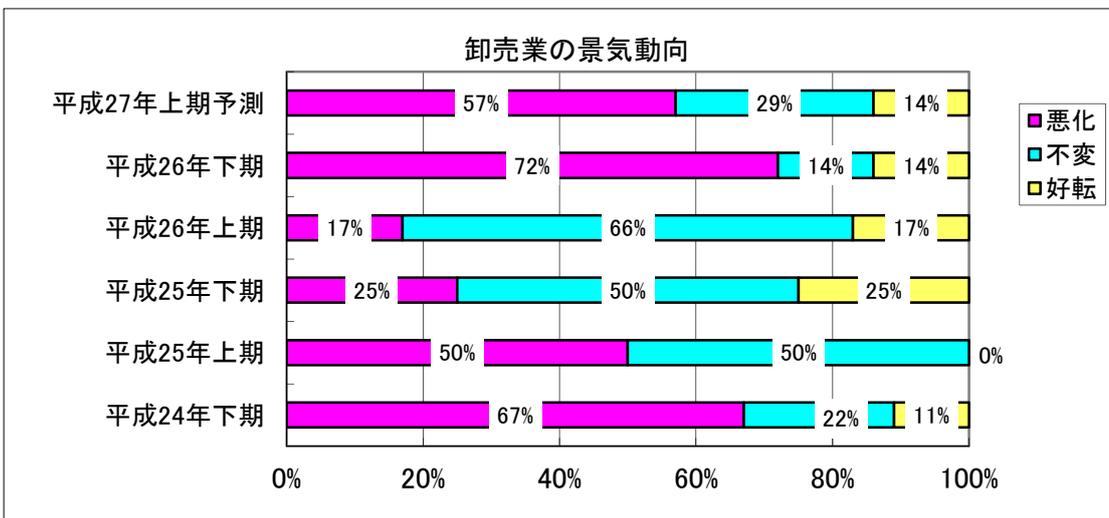


■サービス業

平成26年下期では前回よりも「悪化」が17%とアップし、「好転」が9%とダウンしている。平成27年上期の先行きも「悪化」は減少しているものの状況は厳しい。

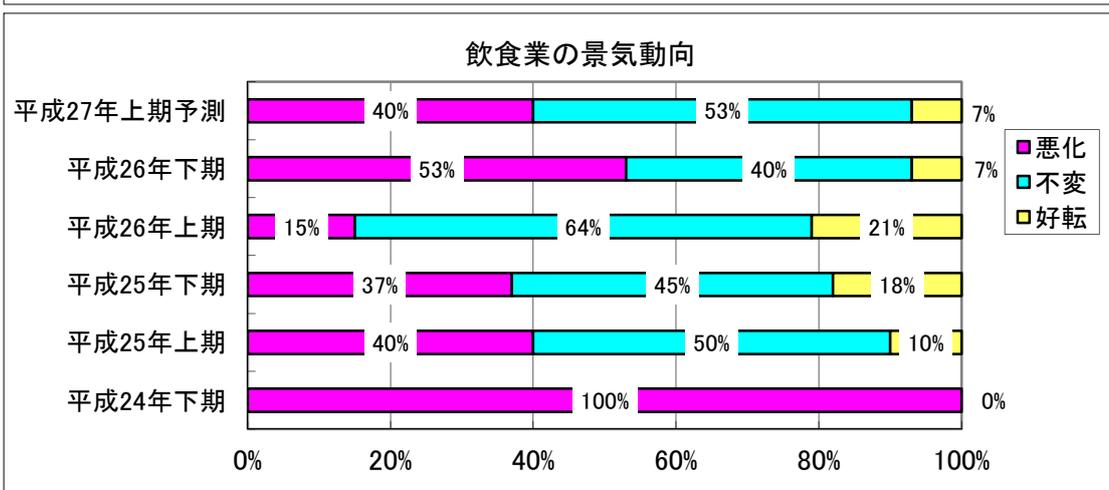
### ■卸売業

平成26年下期は「悪化」が72%で前回より55%アップし、大変に厳しい状況となっている。上期予測も依然と厳しい状況が続く見通しである。



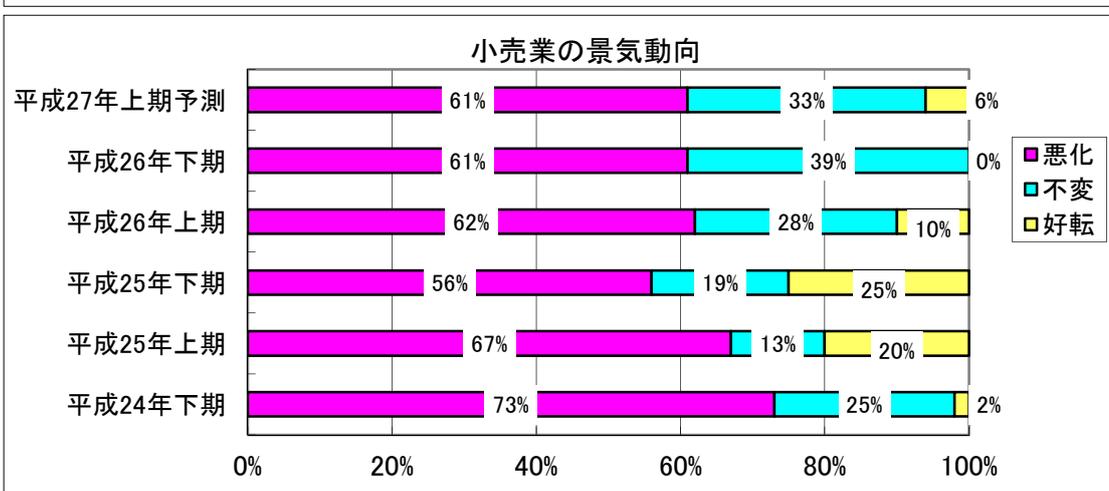
### ■飲食業

平成26年下期では「悪化」が53%と大きく悪化している。原材料の高騰や消費税率のアップが影響している。平成27年上期も依然と厳しい状況となっている。



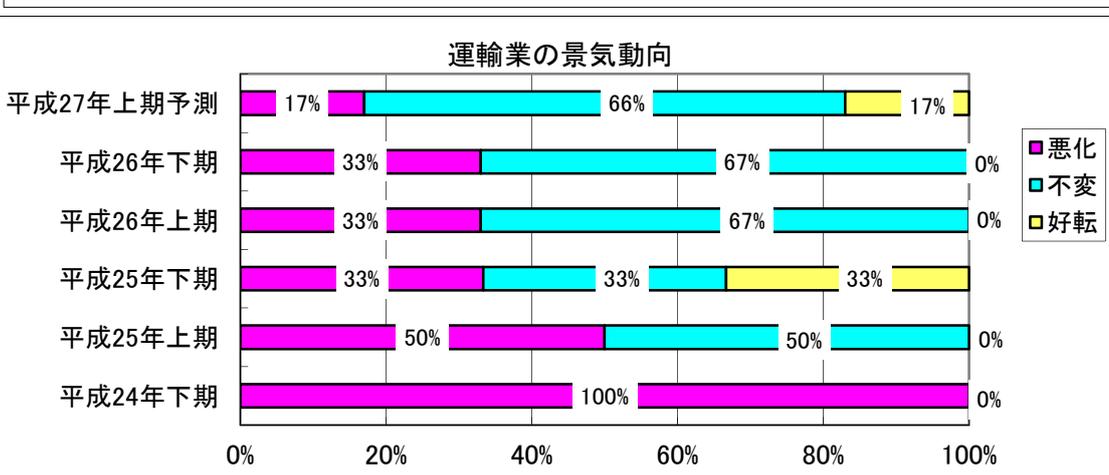
### ■小売業

平成26年下期は、「好転」が0%、「不変」が39%、「悪化」が61%と景気の回復感はない。平成27年上期の見通しも厳しいものとなっている。個人消費の低迷が響いている。



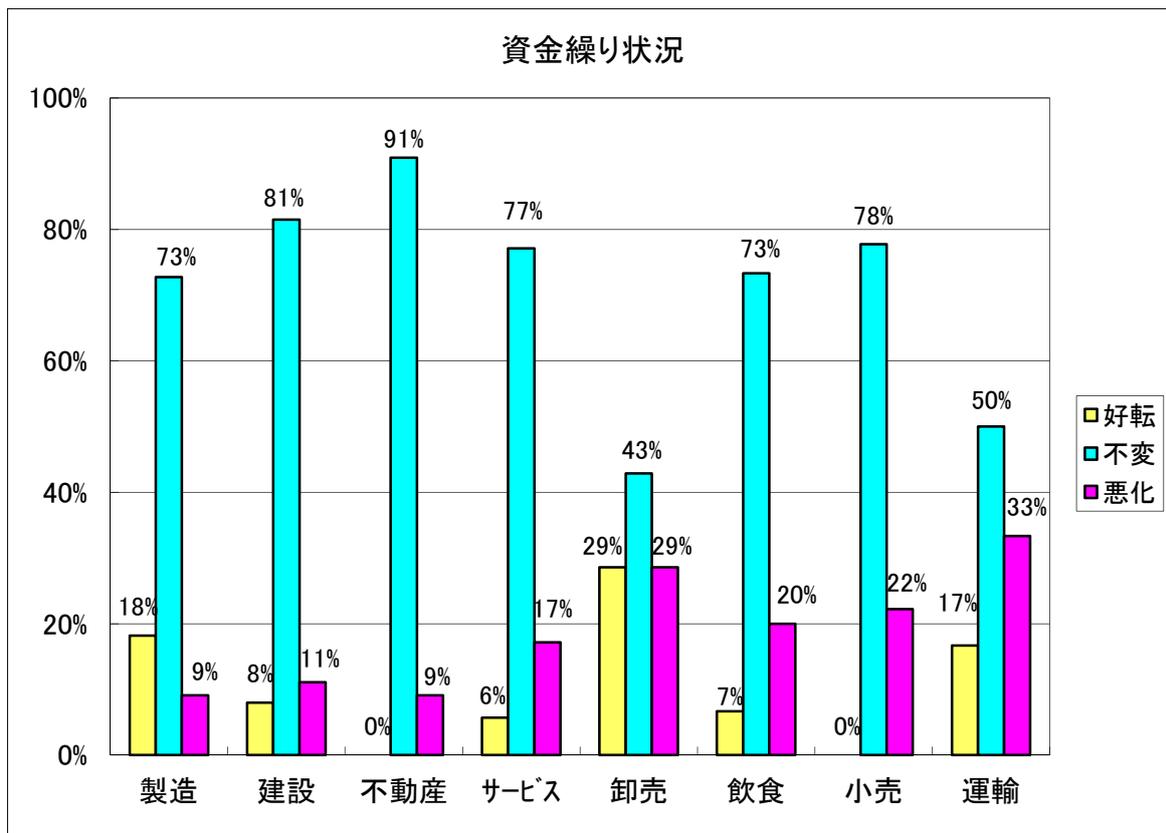
### ■運輸業

平成26年下期は、上期と変わりはないが、「不変」が67%と多く、「好転」はゼロであった。平成27年上期の見通しでは、17%が「好転」となり、「悪化」も17%と減少し、景気の回復感が感じられる。



## ⑥資金繰りについて

全体でみると「不変」が71%（前回67%）、「悪化」が19%（前回20%）、「好転」が10%（前回13%）と回答している。資金繰りが「悪化」との回答があった運輸業（33%）は、消費税増税と人手不足による経費の増大が影響している。



## ⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が46%（前回59%）、「融資無し」が29%（前回18%）、「厳しい」が5%（前回12%）、「緩やか」が20%（前回21%）であった。

